



昭和 42年 12月 25日 第三種郵便物認可 平成 25年 8月 25日 発行 (偶数月 25日 発行) 通巻 456号 ISSN1882-9643

J-SAILING

JAPAN SAILING FEDERATION



NO.102

www.jsaf.or.jp



オレオがつなげてくれる！

おいしいねー！



Twist
回してはずす！

Scoop
クリームをすくって！

Dunk
牛乳に浸す！



ヤマザキナビスコ

JSAFからのメッセージ

世界に羽ばたく

今年、6月にブラインド世界選手権、8月にOP級のアジア選手権と2つの国際レースが開催されました。外洋では8月にトランスパックに6艇が参加し、デイビジョン別ですが1位や2位の好成績を収めています。9月にはニューヨークヨットクラブのインビテーションナルカップにJSAFは参加します。また、オリンピック強化委員会を中心に海外での世界選手権大会に参加しています。とくにスペインでの420世界選手権大会には、ISAFユースワールドに参加した高校生を含む男子7艇と女子7艇と14チーム28名が参加しています。ユース中心の選手たちが、将来のナショナルチーム候補となり世界に羽ばたくことを期待しています。また、JSAFユース制式艇種に420艇が決定したことで、2015年に唐津で420世界選手権大会の開催が決定しました。9月7日のIOC総会で東京オリンピック・パラリンピック開催が決まることを切に願っています



■ジュニア・ユースにも届きます。

J-SAILINGはジュニア・ユースメンバーが所属するおよそ200の団体にお届けしています。各団体のご担当者の方には、ジュニア・ユースセーラーのためにJ-SAILINGを活用されることをお勧めいたします。

■PDFでも読めます。

JSAFホームページの<http://www.jsaf.or.jp/j-sailing/>にアクセスしてください。J-SAILINGのpdfバージョンが掲載されています。過去の記事を再読したり、本誌が手元にない時にもPCがあれば読むことができます。ご利用ください。

■メールアドレスを教えてください。

デジタル化が進み、電子メールを使った連絡方法が一般的になっています。JSAFもメンバー各位に様々な情報をお届けする際、メールを利用することが多くなっています。そこで、各団体の登録業務ご担当の方々にお願いします。メンバーの新規登録や更新登録の際には、必ずメールアドレスを併記していただけるようお願いいたします。

JSAFのメンバーになれば

- ◎メンバーズカードが発行され、公式競技参加の資格が与えられます。
- ◎会費の一部が傷害保険の保険料に充当され、セーリングの事故による死亡、後遺障害に適用されます。
- ◎JSAFの会報誌「J-SAILING」が送付されます。
- ◎各種講習会などに参加でき、資格を取得する際の条件に適用されます。
- ◎「J-SAILING」をはじめ、所属する加盟団体からもセーリングに関する各種行事やレース日程などの情報が提供されます。

加入、更新手続きの詳細は各加盟団体にお問い合わせください。

<http://www.jsaf.or.jp/dantai/>

参加しやすく、
楽しめる大会を目指して

昨年の全日本ミドルボート選手権終了の後、来年も蒲郡で開催してほしいという声を聞き、「要望には喜んで応えよう」と蒲郡・三河湾での連続開催を早々に決めました。

基本方針は前年どおりとし、年末には2012年の参加艇へのPR、年明けからは外洋系加盟団体へのPRも進めました。5月に開催された関東、関西ミドルボート選手権の優勝艇をご招待するというお誘いもしました。

両優勝艇が都合で参加いただけなかったのは残念ですが、関東、関西はもちろん福岡からの参加を得ることができました。参加艇は22艇と昨年を下回りましたが、今年も天候に恵まれ、日を追うごとに風も増し、全10レースとも絶好のコンディションでした。

開催に当たった実行委員会のスタッフは、参加しやすく、楽しめる大会運営に努めること。関東と関西の中間に位置し、鉄道、道路のアクセスもそれなりによく、風光明媚な三河湾・蒲郡だけに、選手だけでなく応援者の参加もしやすく、応援者が楽しく観られるレースにしたいと考えました。

そのために、会場の雰囲気作りにも気を配り、2色の100本の幟や横断幕を掲示しました。ホームページを充実させ、蒲郡の気象・海象情報、宿泊・観光情報、さらにコンビニやコインランドリー情報も掲示しました。レース結果を速やかに掲示するようにし、写真、動画航跡をアップして、レース後の反省や対策の資としていただけるよう努力しました。応援者のために観覧艇を連航しました。

最終日はNW～W、12～15ノットで大型艇有利の風になり、きれいなスタートが切られた



全日本ミドルボート選手権が
7月13日から15日にかけて
愛知県蒲郡市ラグナマリーナを
ベースに開催された。
8m以上11m未満の
22艇の精鋭が集まり、
全10レースを戦った。

全日本ミドルボート選手権 2013



順風満帆の
10レースを戦った
22艇の精鋭たち

参加艇の代表者会議を開催

期間中の中日に参加艇の代表者会議を開催しました。運営側の考え、選手側の意見、要望が話し合えました。「VHFが聞けなかった」「コースの距離をもう少し長く」「ベナルティシステムの変更は良」「レース数の消化具合と天候を見ながら、最終日にディスタンスレースを導入できないか」「レースは数でなく中身だ」「2日間でもよい」「来年もぜひ参加したい」「今後も蒲郡で」等々、貴重な意見を聞きました。

この席では来年の開催について関西ミドルボートクラブから関西での開催提案があり、盛大な拍手で決定しました。場所は40周年を迎えるサントピアマリナ。時期についてはまだ流動的ですが、7月の3連休をベースに検討し、年内には決まるようです。改善意見を加味し、さらに良いミドルボート選手権にしましょう。

このクラスは、8m以上11m未満とレース艇のポリウムゾーンです。今後開催地は関東、関西、東海のいずれかになると思います。ミドルボートでの遠征は厳しいものがあり、今回は1艇が陸送で参加しています。陸送での参加ができる大きさでもあります。そこで、各地のミドルボート精鋭艇にお願いです。来年、再来年の参加をぜひ検討ください。全日本ミドルボート選手権がさらに発展し、日本全体のヨット界が隆盛することを願っています。

今年、遠征艇の受け入れについては蒲郡海洋開発(株)、ラグナマリーナの協力があってこそでした。またラグナマリーナヨットクラブはじめ多数のご協力、ありがとうございます。(中村孝 / 2013全日本ミドルボート選手権実行委員長、東海ミドルボートクラブ会長)

<MIWA>、優勝の記

無欲の勝利

(澤野由和 / ミワチーム広報担当)

■スピンの装備がキーポイント

2013全日本ミドルボート選手権に優勝できて、今はホッとしています。

昨年は準優勝でしたので、JSAF外洋駿河湾のメンバーからも、今年の結果に期待する声がか聞こえ、プレッシャーを感じていました。悪くても上位に食い込まないといけないう気持ちがあったので、本当に安堵しています。

今回のレースの勝因はいくつかありますが、その一つは、前回のレースを分析して、やはりガンボール&ジュネカーでは、上下レースでX35OD等に勝つのは難しいという結論になり、スピンを装備したことです。

軽風ではジュネカー、順風以上ではスピンのように、いわゆるハイブリッド方式で、これは関東ミドルボートで活躍している<GAIA>でも実証されていたので、迷いはありませんでした。

しかし、ここからが苦勞の始まりでした。これまでの5年間はジュネカーのみで戦ってきたので、スピンの機装もクルワークも一から始めることになりました。

とくにパウマンについては、昨年はマストマンだった新人の市村をパウマンにコンバートして、今年からスピンのクルワークの勉強を始めました。パウマンの基本から教えて、わずか6カ月で本番を迎えることになりましたが、十分な練習と本人のセンスもあり、本番では大きなミスもありませんでした。

ヘルムスマンについては、今年の4月から本格的に練習に参加した永山氏が担当しましたが、チームに溶け込んで見事な舵取りでした。

実際のレースでも、ライバル艇のX35ODに負けない走りとなりました。

レースコースについては、特に極端なコースは引いておらず、左海面を中心としたコース取りで、時に右海面が極端によくなった時は後れを取ったりもしました。

■今後も大きなレースに参加

全体的には、2日目以降は15ノット前後の順風で「シドニー36CR」が持つポトスピードで勝ったと思います。

また、レーティング対策も苦心し、最終的に

優勝を果たした<MIWA>チームの面々



はAクラスでもっとも低いレーティングとなっています。

成績については、初日の第1レースこそ総合2位でしたが、その後は風が落ちてしまい、重量級の<MIWA>にとっては苦しい展開になり、第2~3レースは総合で19位と18位という絶望的な結果となり、初日のパーティはチームに暗い空気が流れていました。

しかし、翌日は順風のコンディションとなり、第4~7レースは総合で8-1-2-1となり、チームの士気もかなり上がってきました。ただ、2日目を終わった時点で10点差の4位でしたので、優勝はおろかベスト3にも入るのも難しいと考えていました。しかし、逆に失うものはないので、練習の成果をすべて出すつもりで最終日は無心でレースに臨みました。

結果的に第8~10レースを1-1-1という結果とし、なんと逆転で優勝することができたのは無欲の勝利と言えます。

久保田オーナー率いる<MIWA>チームは、1980年代から90年代にかけてピックボートで活躍し、海外のレースにも参加していました。その後、レース活動を控えていましたが、08年に現在の「シドニー36CR」を購入し、チームを新たに結成してからは、パルレースでの総合優勝、関東ミドルボートでの準優勝などと活躍しています。チームの完成度も上がってきたので、今後も大きなレースに積極的に参加したいと考えています。

最後に、素晴らしいレースを運営していただいた大会関係者の方々に感謝するとともに、ミワチームのオーナー及びメンバーがミドルボート日本一になったことを誇りに思います。



第54回パールレース

〈HORIZON 6〉が 総合優勝

第54回パールレースが7月25日から28日にかけて、
エントリー52艇（乗員総数388人）で行われた。
無風、強風、落雷・雷雨、潮という目まぐるしく変わるコンディション下、
外洋レースの醍醐味を存分に味わうことができたレースとなった。

ファーストホームの〈MONDAY NIGHT〉と支援いただいた海上自衛隊
横須賀総監部の〈ほしだて〉 (photo by Sachie Hamaya)

我が流儀でつかんだ勝利

(中齋龍美 記)

■ハワイから五ヶ所湾へ直行

西暦奇数年は楽しみがいっぱい詰め込まれた、慌ただしい綱渡りのスケジュールになる。というのはトランスバックレース(米ロス～ホノルル)があるからだ。

今年も同レースを〈ベンガル7〉で走り切って、その直後にパールレースに〈ホライズン6〉で参戦となった。今年はハワイの風が弱くギリギリの日程となり、トランスバックレース参加組は家に戻らず、空港からレース前夜の五ヶ所湾に直行した。

メンバーは郵瀬オーナー、高木(裕)、荒川(海、友)兄弟。そして国内組から郵瀬オーナーと同級生の奥平と中齋の2人で6人。2年前の優勝の時と5人は同じメンバーで、荒川(友)が新顔。

国内残留組はオーナーの温かい配慮からパールレース出場チャンスをいただき、「ようし!」と燃える。エンジン、船底など整備から回航まで、残留組の限られたパワーで準備は完璧を期す。また、トランスバック参加組も大型艇の居並ぶディビジョン2で世界の強豪と9日間の激戦となり、ストレスを感じた後のパールレース。秘めたる闘志は語らずとも全員が感じており、静かな気合いの入った状況でのスタートとなった。

■5つの勝因

レース参加艇は、みなベストを尽くして頑張っているが、艇、セール、クルーすべてが優秀でも必勝の確証はない。今回〈ホライズン6〉に何故女神が微笑んだか定かではないが、こだわった点やよかったと思える点などを列記してみたい。

①「パールは沖出しに限る、誰よりも沖へ!」。郵瀬オーナーと私は沖出し大好き、またギャンブルも好き。とくに今年は黒潮の蛇行が大きく、2ノットの追い潮を活かした。郵瀬オーナーの「パッファロービルで行こうぜ!」は今回は大当たり。30回も出ていれば、当たることもある。大切なのは大好きで続けること。

②「いつも秒差の勝負」。第28回(1987年)は13秒差。第52回(2011年)は24秒差、40時間走っても僅差の優勝だった。風の強弱や方向変化にすぐ最適な対応で最善を尽くす。すべては一つ一つの積み重ね。

③「ロングレースでもスタート、序盤が重要」。下2スタート、そして布施田の暗礁を高位置で通過。後続の大型艇は、スピード重視でジェネカー展開する。抜かれても高さ重視を守りジェノアで沖出しを続けた。迷わず専念できたのは、いいスタートが切れたから。最初のアドバンテージのおかげで、基本方針がぶれず、我が道を行けた。

④「チームワーク」。60代=3人、50代=1人、30代=2人。30代の荒川兄弟は第二世代のセイラー。父上は以前にホライズンでパールレースに参戦した仲間。子どもの時にホライズンに乗った感動が残っているようだ。あの時のおチビちゃんが立派になって動きの重い年寄達を……口は荒いが、お互いに敬意を払う関係。

⑤「縁起を担ぎ、時には必死に祈る」。2年前にあやかり、同じメンバーでの五ヶ所回航、泊りも同じ「旅館二葉」。稲光、落雷の中で「雨よ来ないで、風だけ吹いて!」。大島から江の島で「シーブリーズよ止まらないで」。最後は海鳥に荒川(海)が「トリさん、トリさん、お願いします!」。縁を大切に、素直な気持ちで祈る。

いろいろ書き出してみたものの、運不運もあるし、理由の後付けは何でもできる。すべては結果論、勝てば官軍です。レースを終えた直後に感じたままを、素直な気持ちで書いたつもりです。レース談議の肴にしていなければ幸いです。

素晴らしい企画と運営をしていただいたレース関係者の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。エントリーされた52艇の皆さま、お疲れ様でした。このところ外洋レースへの参加艇が少しずつ増えてきています。外洋レースならではの素晴らしい体験、感動のお裾分けを、少しでも伝えてあげていけたらと思います。では、またレースでお会いしましょう。ボンボヤージュ!



ここに協賛、後援の企業、団体および、参加艇オーナー、艇長、乗員や家族、関係者、そして本大会の運営にご尽力いただきました多くのみなさまに改めてお礼申し上げます。レース報告とさせていただきます。(菱田育夫/第54回パールレース・レース委員長)

表彰式会場は「江ノ島アイランドスパ」のレストランで行い、参加艇のフィニッシュ映像やレース航跡図が早速映写され、お互いの健闘を讃えました。来年はスタート、フィニッシュともに新たな施設で迎えることになりましたが、多くの参加があるよう期待します。過去4回3回連続ダブルハンド部門優勝の〈THEETS〉の児玉艇長は、オートパイロットへの信頼があればスケジューリング調整を気にせず参加できるダブルハンド部門の魅力も熱く語っていました。また、最終フィニッシュ艇の〈景虎〉の長尾艇長は念願の単独太平洋横断を果たし、還暦を日付変更線で迎えたという無類のヨットマンであり、大きな拍手が送られ散会となりました。

〈景虎〉の長尾艇長に喝采

上本部船(はしだて)からの無線を通して伝わってきます。2艇がDNIC、スタートした艇の内45艇がフィニッシュし、5艇のDNIF。最終艇となったダブルハンド(景虎)は、直前フィニッシュ艇から6時間後の28日12時47分にフィニッシュしてレースを終了しました。大型艇とともに速い小判艇もフィニッシュが続き、レース成績は小型艇有利となり、総合成績の上位を占めることとなりました。フィニッシュおよび入港、帰着申告とトラブルもなくスムーズに対応できたのは外洋湘南・江の島ヨットクラブのチームワークの賜物と感謝いたします。

クラス分けの新しい試み

ファーストホームは〈MONDAY NIGHT〉(SPRINT 50MOD)外洋東海で所要時間は27時間33分01秒。終盤からのリードを保ちそのままフィニッシュしました。

レース結果は、IRC総合優勝〈HORIZON 6〉(YOKOYAMA 30R外洋東海) Aクラス1位(LIBERTY III) (FIRST 40) 外洋湘南) Bクラス1位は(ANDIAMO II) (J/V 98R) 外洋東京湾) Cクラス1位(EVERYTHING EVERYTHING)

(YAMAHHA 35) 外洋湘南) Dクラス1位(HORIZON 6) ダブルハンド1位(THEETS 4) (FIRST 40) 外洋三浦) となりました。

今大会のクラス分けはIRCレーティングシステムのDLRの値を使い、DLR:200未満の船をレース志向の船、200以上をそうでない船と大きく分け、レース志向の船はTCCを参考にクラス分けし、同型艇で競えるように配慮しました。

今回の江の島のフィニッシュ本部船は、海上自衛隊横須賀総監部の(はしだて)に支援いただけたという僥倖がありました。

小型艇有利

スタートは7月26日。IRC、ダブルハンド部門ともに午前11時に同時スタート。南東からの5ノットを超える風を掴みオールフェアで素晴らしいスタートをしました。

また各艇の位置情報を素早く取りまとめ、ホームページにアップすることができたのも江の島フィニッシュ本部の受け付け、記録担当者の努力のお蔭です。ファーストホーム艇に続き午後4時頃までに20数艇がほほひとかたまりとなってフィニッシュし、その慌しい様子が海

本部船としてロールコールを担当していただいたのは外洋湘南稲葉会長の乗る(ラッキーレディVII)です。参加艇の8割が国際VHFを利用するため、同艇の通信員・藤田氏と「天使の声」と好評の亜美子嬢のベアードで超多忙な通信業務を支えてくれました。

また各艇の位置情報を素早く取りまとめ、ホームページにアップすることができたのも江の島フィニッシュ本部の受け付け、記録担当者の努力のお蔭です。ファーストホーム艇に続き午後4時頃までに20数艇がほほひとかたまりとなってフィニッシュし、その慌しい様子が海